

湖東・湖北

毎月第3日曜日発行

2022 7 月号

Vol.152

毎日ナビ

毎日新聞湖北ブロック会 協賛

毎日新聞湖北ブロック会事務局（毎日新聞長浜販売所）

滋賀県長浜市小堀町 347-5 TEL.0749-62-0954

制作 / オフィスいしやま（毎日新聞大津販売）

湖北



野鳥の生き生きとした瞬間を切り取った写真展

琵琶湖で越冬するオオワシを約30年にわたって撮影している山岡和芳さん（75）の長浜市木之本町田部Ⅱの写真展が6月に同市高月町渡岸寺の高月まちづくりセンターで開かれた。

24年前から毎冬飛来している雌のオオワシを追ったものを中心に23点が展示された。シーズン中はほぼ毎日オオワシがいる同市湖北町の山本山を訪れ、800ミリの望遠レンズで撮影しているという。捕まえた魚をトビに狙われて逃げの様子や水鳥のオオバンを大きな爪で捕まえて飛ぶ姿など、生き生きとした「生」の瞬間を切り取っている。

山岡さんは「撮影中に『こつち、こつち』と叫んでオオワシが近くに飛んでくることがある。こちらの気持ちが届いたかなと感じる瞬間がとてもうれしい」と話していた。

【長浜通信部・長谷川隆広】

長浜

オオワシを生き生きと山本山に通うカメラマン作品展

雑談から活動のヒントを市民の交流スペース開設

長浜



毎月1回、市民活動やまちづくり活動をする「雑談スペース」の開設

市民活動やまちづくり活動をしている人が気軽に集まれる「雑談と雑談の間 ワークスペース」が6月から長浜市高田町の長浜まちづくりセンター1階会議室で始まった。来年3月まで毎月第2木曜日に開設する（8月のみ第3木曜日に開設する）。

同日。午前10時～午後7時半。コワーキングスペースと相談などをするフリースペースがある。ながはま市民協働センター職員ら3人が待機し、雑談をするような感じで日ごろ気になっていることを話し合うことができる。1日3回の交流タイムがあり、誰かの相談に対し、集まった人たちが知恵を出し合って解決策を探ったりもする。

同センター職員の安藤こず恵さん（45）は「『やってみたい』を応援する場所。交流の場として活用していくので、いろんな人に来てもらいたい」と話していた。

【長浜通信部・長谷川隆広】

湖東

彦根

自販機で人気店の味ラーメンやぎょうざ

彦根市本町1の有限会社「滋賀飲料」は人気ラーメン店などの冷凍食品が購入できる自販機2台を会社前に設置した。愛称は「ばくばくパーク」。観光名所・夢京橋キャッスルロードに面しており、観光客や家族連れなどをターゲットにしている。

地元人気店「ラーメンにっこう」「らーめんチキン野郎」のほか、東京の「ラーメン風」「吉祥寺武蔵家」の商品も。近江牛すじ煮込み、宇都宮ぎょうざと話す。



冷凍食品自販機をPRする滝圭介さん

【彦根通信部・伊藤信司】

真っ赤な車、集まろう！「井伊」にちなむイベント

彦根

各地から赤い車が集合するイベント「赤祭り」が8月14日、ひこね市文化プラザ（彦根市野瀬町）で開かれる。参加希望者は7月22日午後5時までにホームページ（<https://www.akamatsuri.com>）から申し込み、参加費2000円を振り込む。赤以外の塗装が混じったり、違法改造された車は参加できない。赤祭りは和田裕行市長が自営業時代、旧彦根藩の軍装「井伊の赤備え」にちなんで発想。2007年～09年に開かれた。和田市長は赤をイメージした町おこしを掲げて21年4月に初当選。赤祭りを復活することになった。赤い飲



2000年代に開かれた「赤祭り」＝実行委提供

食品の販売ブース、赤い車を模擬運転するゲーム、eスポーツ大会も予定している。問い合わせは実行委事務局（airo.hikone@gmail.com）。

【彦根通信部・伊藤信司】